高松市生涯学習センター　生涯学習推進事業［コミュニティセンターとの連携事業］

「秋の絵手紙教室」を開催しました

平成２４年１０月４日・１８日の２回，日本絵手紙協会　公認講師で太田南コミュニティセンターなどでもご活躍中の佐藤俊枝さんを講師にお迎えしました。

絵手紙は，“ヘタでいい　ヘタがいい”。決まったかき方や形式はありませんが，いくつかポイントがあるようです。

はじめに，線を描く練習をしました。筆をつまんで持ち，ひじを上げてゆっくりゆっくり，１０ｃｍを１分かけて描くイメージです。右から左，左から右に直線を引いたの後は，“正”や“中”の字，ぐるぐるの渦が描けたら，いよいよ本番です。

絵のモチーフを決め，よく見て，画仙紙（書画用の紙）からはみ出すように大きく描きます。丸いものは，中心から描くと良いそうです。

モチーフの輪郭を描いた後は，色つけですが，その前にモチーフの光っている部分を探します。その部分に色をつけず白く残すことで立体感や輝きが表現できます。顔彩（日本画などに用いられる絵具）を筆に取ったらタッタッタッとリズミカルに色をのせます。最後に，送る相手を思いながら言葉を書いて完成です。

みなさん，それぞれに素晴らしい作品が仕上がりました！！